

神戸新聞社の方から教わる

改めて感動

本山第二  
小学校  
5年4組1番

神戸新聞社のみよしさんのお話を聞いて、私は一枚の新聞にたくさんの人と時間、お金が必要ですごい大変なのに絶対に毎日人々に新聞を届けようという気持ちがすごいと思いました。話を聞いている中で逆三角形や5W1Hなどの知らない言葉、初めて知ったことがたくさんあり、更に文が読みやすい書き方などと生活にも役立つことを教えていただいたので学校で文を書くときに言われたことを気をつけて文を書くときは頑張りたいです。神戸新聞社の方が大切にしていることや気をつけないといけないことがたくさんあって私が今取材や新聞を作ったら、文が混ざったりして変な新聞ができると思います。新聞社のことや仕事についてたくさん教えてくださいありがとうございます。とても勉強になりました。

# 神戸新聞社の仕事

本二の神戸新聞社の出前授業でいろんなことを教えてもらいました。新聞を作るには記事選び→レイアウト→パソコンで作る→印刷→販売店ごとに分ける→トラックで運ぶ、という作業になっているそうです。正確な情報かどうかチェックしたりきちんと印刷されているかどうか確認する細かい作業もしているそうです。写真の撮り方などはテーマにそったものや角度なども注意しているそうです。5w1H(いつ, どこで, だれが, なにを, なぜ, どのように, )が大切だそうです。そのなかでもなぜがないと、成り立たなかったりどのようにがないと味気ないものになってしまうそうです。細かいことなどもしっかりやっているのがすごいと思いました。

本山第二小学校 5年4組 3番

## 三好記者が語る 神戸新聞社の裏側とは

本山第二小学校 5-4-4

今回、神戸新聞社の三好記者にお話しをお伺いしました。貴重なお時間を頂きましてありがとうございました。

三好記者のお話を聞いて感心したことがあります。

1つ目は、神戸新聞ができるまでの工程です。

神戸新聞は、

1,取材 2,編集会議 3,編集 4,印刷 5,配送

の主に5つの工程があると聞きました。

この工程の多さでも驚いたのですが、一番驚いたのが「印刷」です。何故なら、印刷をしたら一枚一枚人の目で確認をするからです。

新聞はかなりの量を刷られています。これは、なかなか大変な作業だなあと思いました。初めて知ったこともあります。

1つ目は、神戸新聞社さんの社員の数です。神戸新聞社さん社員が500人、記者が240人います。

ほとんどが記者だと思っていたのですが、記者はおよそ半分しかいないと知りました。

2つ目は、「5W1H」です。学校では逆三角形は習いましたが、「5W1H」は初めて知りました。

## 三好記者直伝 写真の撮り方とは

今回、本山第二小学校に来てくださった三好記者。上手に写真を撮る方法を教えてくださいました。

1,位置を考える 2,三角構図 3,対角線構図 4,見出しは記事とくっつける

の4つを教わりました。

この方法を使って、相手に伝わる新聞を作りたいです。

# < 神戸新聞社の振り返り >

神戸新聞社では、正社員が500人と記者が240人  
いて毎日協力して新聞を作っていて多いけど少ないから頑張っ  
ていてすごかった。また、記者は、  
色々な所に行って取材しているので色々な人などにあえてすご  
い。またその情報を会議で話し合い  
どれを載せるかを決めて作りその後印刷しミスがないか探すの  
に結構時間がかかると思った。

# 出前授業のふり返し

本山第二小学校 5年4組 6番

神戸新聞社の人の話を聞いて、新聞を作るときに工夫していることが分かりました。トップが大きく見えるように工夫したり大きな見出しを上にしたりはら切りをしないなど、新聞を作るにあたって色々な工夫をしているんだなと思いました。号外は、初めて聞いたけど、人気だったということを知れて良かったです。

# 新聞の書き方を教えてもらって

神戸新聞社の話を聞いて新聞を作るのは大変だと思いました。  
まず取材をするのは相手に合わせながら会話を楽しんでインタビューをすることが大切だと分かりました。  
記事を書く時も5W1H(いつ、どこで、だれが、何を、なぜ、どのように)を気を付けていると知りました。

阪神淡路大震災で困った時もあったけど、京都の人が助けてくれたおかげで新聞を作れた時もあったことから神戸新聞の人も京都新聞の人も新聞を何が何でも届けたいという熱意を感じられました。

自分は今新聞委員会ですけどこの勉強を生かして次の新聞を書きたいです。

# 〈神戸新聞社の人の話を聞いて〉

## ～三好正文さんに話を聞いた～

### 〈新聞を作るときの説明の感想〉

- ・新聞を作るのは、取材や編集だけだと、思っていたので今回の話を聞いて、が思っているよりも工夫されているんだな、と思った。
- ・人のことを新聞に載せるだけでなく、動物や物のことも、載せているのにも、工夫されているなと思った。
- ・普段何も考えずにとっている写真も今度からは気を付けて、撮ってみようと、思った。

### 〈全体の感想〉

- ・普段、何気なく読んでいる新聞が、読む人が読みやすいように、分かりやすいように工夫されているなと思った。



# 神戸新聞社 出前授業 振り返り

神戸新聞が、できるときには、様々な、工程があって、びっくりしました。新聞を、作る、基本が、【5W 1H】ということが知れてよかったです。これから、新聞を、読むときは、【5W 1H】や、文章、写真、レイアウト、に、注目したいです。

新聞の、間違いなどを、人の目で確認されていて、びっくりしました。

朝刊は、知っていたけれど、夕刊も、あったので、チェックしたいです。

朝刊と、夕刊に、間に合うようにして、ビックリしました。

これからも、頑張って新聞を、作ってほしいです。



# 神戸新聞社の振り返り

ぼくは神戸新聞社のみおしさんのやっている仕事は大変なんだと思いました  
新聞の作るまでは結構時間がかかるんだと初めて知りました  
新聞を作るのは取材をする人と新聞を作る人はわかれてやるんだなと  
初めて知りました  
新聞記者の仕事も大変なんだと思いました

本山第二小学校 5年4組12番

# 阪神淡路大震災について ～新聞の大切さ～

新聞は読む人に正確で読みやすくするために

**5W1H** に気を付けたりしていてすごいと思いました。  
そして毎日取材に行って写真の撮り方も工夫しているところも

**読みたくなる** 工夫なんだなと思いました。

地震などで情報が欲しいとき新聞があったら **安心** するだろうなとも思いました。

本山第二小学校 5年4組13番

# 新聞づくりの裏側！

## 三好記者に教えてもらった。

本山第二小学校  
5年4組14番

### 振り返り

僕は神戸新聞社の話を聞いて、新聞を読者が読みやすいように1番のニュースはあたま、2番はかた、3番はへそとしている。

新聞はまずいろいろなところで取材する。

そして編集会議でなにを乗せるかきめ、編集する。

そして、新聞の基本は5w1hで書かれている。

このように新聞は読者が分かりやすいよう、

神戸新聞社は日々努力している。

# 神戸新聞社の出前授業 振り返り

## 【感想】

今回は神戸新聞のことを教えてくれてありがとうございました。

神戸新聞の細かいところまで分かりやすく教えてくれてとても勉強になりました。

いつも何気なく読んでいた神戸新聞一枚がとても工夫や苦勞がされているんだと

感じました。またこの経験を生かしてわかりやすい新聞を作りたいです。

貴重なお話ありがとうございました。

## 【印象に残ったこと】

- ・相手のリズムに合わせる
- ・地域ごとに内容が違う
- ・取り方は斜めから

本山第二小学校 5年4組16番

# 神戸新聞社出前授業を通して

本山第二小学校 5-4-17

## 【感想】

いつも何気なく読んでいた新聞だけれど、その新聞を創るのにどれだけのお金や人数、時間がかかっているか知ることができました。また、新聞を創るうえで必要なテクニック(逆三角形や5W/H)や具体的に書いたり、主語と述語を近づけたり、マンネリ表現を避けたりするという正確さに気を付けて執筆することも知ることができました。これから新聞を読むときはこのようなことを注意深く読みたいです。

神戸新聞社の三好記者に教えてもらった！  
新聞作りの秘訣！

〔感想〕

今回の出前授業ありがとうございました。

とても分かりやすく、新聞の作り方を教えてもらいました  
いつも普通に読んでいる新聞がこんなに大変だと知りました。  
ぼくは記者になりたいのですが改めて厳しさを感じました。

**三好記者ありがとうございました。**

# 神戸新聞社さんの話の振り返り

## 教えてもらったことの振り返り

人と防災未来センターのことについて新聞にまとめるために神戸新聞社の三好さんの話を聞きました。

取材→編集→印刷→配送という作る工程や朝刊夕刊号外があること、5w1hの「いつ、どこで、だれが、なにを、なぜ、どのように」などいろいろなことを教えてもらいました。

本山第二小学校 5年4組19番



# 神戸新聞社で習ったこと

本山第二小学校 5年4組20番

神戸新聞社の三好さんからの2時間授業では新聞を作るにはとても多くの工程がありとてもびっくりしました。

他にも写真の場所や分かりやすく情報伝えるためにはどうすればよいのかなどとても勉強になりました。

人と防災未来センター、神戸新聞社の振り返り  
本山第二小学校5年4組21番

## 「人と防災未来センター」

人と防災未来センターでは、いろいろな体験や見学をして災害に関することをたくさん学びました。その中でも、体験の学習は実際に起こった時よりは怖くないと思うけど、結構怖かったです。体験が終わった後も見学しながらメモをして、震災などのことをたくさん学べました。たとえば、橋が液状化したり、商店街が火の海になってたりして、被災した人はすごく怖かったんだなおもいました。

## 「神戸新聞社」

神戸新聞社の話では、新聞の作り方をたくさんスライドショーにまとめてくれて、わかりやすかったです。あと、神戸新聞社の三好さんがしんぶんをつくるときにしゅざいしたひとがたくさんいて、こんなたくさんの人に取材ができていてすごいなと思いました。

# 神戸新聞社振り返り

新聞を作る工程は結構多くて号外、朝刊、夕刊たくさんの新聞を作らないといけなくてとても大変だなと思いました。

たくさんの場所に取材に行ったり、体験取材という初めて聞いた取材の仕方があってとても面白いなと思いました。

新聞を作るときの基本は5w1hがいつでも必要だということがわかりました。

いつ、どこで、だれが、なにを、なぜ、どのようにがとても大事だと

わかりました。一枚の新聞にたくさんの時間がかかっていて毎日たくさんの

人々にたくさんの情報や、笑顔を届けるためにとても工夫されていて

とてもすごいなと思いました。相手のリズムに合わせて取材は毎回多分

ペースが違うと思うから相手に毎回合わせるというのはとても難しそうだなと思いました。

新聞はただの文だけじゃなくて写真がとても重要だとわかりました。

インタビューをするときは楽しむ！ことが大事だとわかりました。

いつも何気に届いて読んでいる新聞だけどたくさんの工夫がされていてとても大変だとわかりました。次新聞を読むときはどこに5w1hがあるかとかを考えてみたいです。

本  
山  
第  
二  
小  
学  
校  
二  
五  
十  
年  
二  
四  
番  
組

新聞作りにはたくさんの方が関わっていて  
記者の人たちも事件や自然災害の場所に行ったりして  
いて肉体労働でもあると  
思っ  
てめっちゃ大変なんだな  
と思いました

## ～三好さんの話を聞いて～

三好さんの話を聞いて新聞を作るのは、とても大変なんだなあと思いました。

例えば、当たり前のように「朝4時から、」と言っているものすごく驚きました。

他にも、三好さんのスケジュールを教えてもらったんですけどとても大変そうです！

新聞記者の方々は、毎日時間と戦っているんだなと感じました。

しかも、新社員の方々は祭り、マラソン、福男など大変そうでした。

忙しいのに、私たちに教えてくださりありがとうございました！！

前「しあわせはこぼう」で、新聞が発行できないときに、京都新聞社が手伝ったと書いていて、京都は私の生まれたところで、神戸は私が今住んでいるところで2つが協力していると思ったらうれしくなりました。

三好さんは、阪神淡路大震災で死にかけたことがあったそうで私もこわくなりました。

本山第二小学校 5年4組 24番

# 神戸新聞社のことについての振り返り

ぼくは新聞を家でとっているのですがどのようにして取材や見学に行っているのか気になりました。

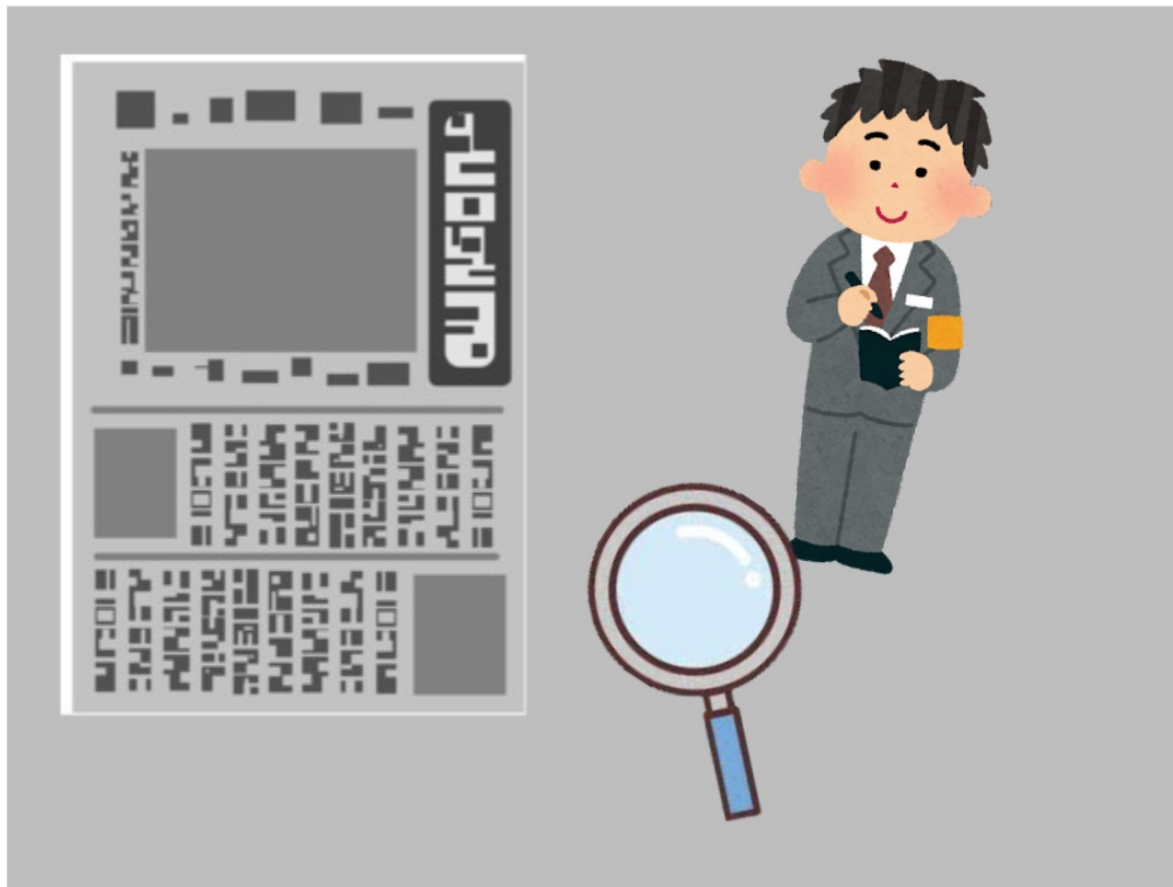
地震が起きていても日本の人たちにおくらないといけないので、  
地震の現場まで行って資料をまとめているので新聞記者の人は、  
勇気のある人だと思いました。

取材をするときも写真の向きや撮る場所、背景にも気を付けているし  
質問も相手が疲れない程度に3個くらいにして具体的に聞くのは僕は、  
できないと思うので新聞記者の人はすごいなと思いました。

新聞記者は有名人にも会えるけど、取材に行くときに世界各地に  
行くのは大変だと思い、新聞記者の人は  
大変だけど頑張っているのがわかりました。

本山第二小学校 5年4組25番

# 新聞記者の仕事、「三好さん」が語る



僕は三好さんの話を聞いて新聞とは意外と大切な仕事だと思いました。災害時などにいち早く情報を伝えることができます。今よく見られているネットニュースも元は新聞です。やりがいがある仕事だと思われ、技みたいなのもあるらしくて、次新聞を作るのに役立つと思います。

く振り返りく  
新聞

本山第二小学校



# 私は、三好さんの話を聞いて

本山第二小学校 5年4組 28番

私は、新聞を作るのは大変だと思いました。  
特に人の目で1枚1枚確認していることがすごいと思いました。  
理由は大事件や土砂崩れ、地震とかにヘルメットを  
付けて行くと知って危険な状態だけどそれだけ  
知ってほしいことだなあとと思いました。

伝わりさすさ

1日中働く

大変！

人の命

## ～記者たちの工夫や頑張り、自分の感想～

僕は、みよしさんの話を聞いて、新聞記者について、いろいろなことを知りました。

上手く写真を撮る方法、うまく聞き出すコツなど。

僕が、もし新聞記者になったら取材するとき、被災地の方などに心をよりそい話をきいてあげたいです。



# 人と防災未来センター、神戸新聞社の振り返り

## 本山第二小学校 5年4組30番

### 人と防災未来センター

私は人と防災未来センターに行って、地震とは恐ろしいものだと思います。人と防災未来センターにある、資料や映像など、いろいろなものを見て、特に心に残ったものなどをメモしました。

私は最初に見た、阪神淡路大震災が起こった時のものを再現した映像が心に残りました。

音だけではなく、光もあってとても怖かったです。

映像だけであんなに怖いのなら、眠っているときにいきなり、すごい揺れに自分の家のものが落ちてきたりしたら、どんなに怖いのだろうと思いました。

私は、人と防災未来センターに行って、阪神淡路大震災だけではなく、ほかの地震についても、詳しく知りたいと思いました。

私は、神戸新聞社の人の話を聞いて、新聞を作るのは、想像以上に大変なものなんだと思いました。

私が一番すごいと思ったものは、取材です。

なぜかという、相手がどんな人なのかを知るため、最初に調べておもしろいです。

だけど、完全には調べません。理由は、質問しすぎて、相手が疲れてしまうのを防ぐためらしいです。

そして、相手の話し方にも気を付けます。

質問される側の話し方がゆっくりだと、質問する側もゆっくり話します。逆に、質問される側の話し方が早いと、

質問する側も早く話します。質問するだけでもこんなに

工夫がされているんだと思いました。私は、神戸新聞社の人の話を聞いて、誰かに質問するときは話し方にも気を付けてみようと思いました。

# 神戸新聞社と震災

三好さんの話を聞いて、震災の時に新聞を求めている人がいるときに正確に素早くできるのはすごいと思った。阪神淡路大震災のとき、神戸新聞社も被害を受けていたけれども京都の新聞社と協力して発行できたことを学校で習った。神戸の復興のシンボルともいわれていた神戸新聞はから神戸の人にとって大切なものだとわかった。また、能登半島地震のときも素早く現場に行ったんだろうと思った。その時も情報を正確に素早く発行していたんだと考えた。そして、新聞では5W1Hを基準として書いているとわかった。これから、いろいろな新聞を読もうと思った。

# 神戸新聞社の出前授業

5年4組 32番

新聞をつくるときは、正確に分かりやすく作らないといけないけど朝刊と夕刊があるからとても急がないといけないんだなと思いました。また、阪神淡路大震災の時、神戸新聞社が地震で崩れてもみんなのために絶対に新聞を届けたいと思える社員や記者の皆さんの気持ちはすごいなと思いました。それがさいがいにあった人たちの気持ちも癒してあげれたんだなと思いました。

# 出前授業の感想

新聞をつくるにはいろいろな工程があり、大変だと思いました

新聞記者の人はいろいろなところを  
飛び回っていたことを知ったので、大変だと思いました。



# 出前授業の感想

本山第二小学校

5-4 34番

新聞を作るようなことはないの  
どのように新聞を作るかを聞いて  
大変だなと思った。

いろいろな工程をしてつくっていた。

インタビューの時に

相手のリズムに合わせることや  
少しずつ質問することが印象に残った。

## 神戸に起きた災害について、学んだことの振り返り

私たちは、神戸で起きた災害阪神淡路大震災について、人々の行った協力、これからの防災について見て学んできました。

阪神淡路大震災は、人々の家族、家、友達、色々なものを奪っていきました。

しかし震災後壊れた神戸の街に各地からボランティアの人達がきてくれました。まずは、市民の人たちの安全確認、食品の配給、衣類の配給、などさまざまな事を行って下さいました。

神戸市民の人々も、協力してだんだんと心をちなおらせて、皆で神戸を復興させていきました。

その後、神戸がみるみるうちに立ち直っていました。

そして、神戸では災害がいつ来てもいいように防災にグッズを備えたり避難所をつくったりしました。けれど、災害はいつおそってくるかわからないだから、予想をして先に逃げたりするかが大事。

逃げることは生きるということがわかりました。

この経験は、とても貴重な経験だと思います。

本山第二小学校5年4組36番

# 神戸新聞社の振り返り

本山第二小学校  
5年4組38番

## 神戸新聞社の方々のすごさ

神戸新聞社では社員500人記者240人と協力して神戸新聞を毎日12時間おきに新聞を作って私たちのもとに届けています。毎日新聞を12時間おきに書くのはいくら大人数でも大変だと思います。なぜなら、正確にまた、分かりやすく新聞を書かなければならないからです。他にも取材や会議も行っています。大変な中、新聞を書き続ける社員の方々記者の方々の姿は昔にもありました。

## これからも続けて神戸新聞社

## 阪神淡路大震災と神戸新聞社の方々

それは阪神淡路大震災の時です。彼らはいつも以上に大変な中夕刊を何としても届けたいという思いを押し通し届けたのです。私はこの話を知り、神戸新聞社の方々に尊敬しました。  
(まさに神)

私は神戸新聞社に  
いる人をこう思っています。

125年間あきらめず  
新聞をかき続け、  
いつも私たちにわかりやすい  
新聞を送ってくれる。  
そばにいたような優しい方々がいると  
思っています。

# 神戸新聞社の方の出前授業

5年4組39番

2月1日の木曜日の2～3時間目神戸新聞社の三好さんが出前授業をしてくださった。  
新聞の作り方や分かりやすさの秘密、記事の書き方や取材のコツを教わった。  
その中で心に残ったのは記事の書き方だ。  
私は文章を書くとき長々と書いてしまうほうだ。  
だが、今回の授業で文章は短く  
、「5W1H」(いつ、どこで、だれが、なにを、なぜ、どのように)をすべて入れる。  
と教わったことにより、文章を分かりやすく書けるようになったと思う  
このように、教えていただいたことをいかして、文章を書いたり  
することを頑張ろうと思う。